

昭和建物管理 三河支店(碧南市民病院)課長

(うるしど・たかお)

漆戸 隆夫さん



広い施設でいろいろな機械設備を扱えることが仕事の醍醐味(だいごみ)だという(撮影のためにマスクを外しています)

1963年創業の老舗総合ビルメンテナン企業、昭和建物管理(名古屋市)。三河支店の漆戸隆夫さん(66歳)は、88年の開院時から碧南市民病院の設備管理を担当しているベテランだ。65歳定年の同社で60代の社員は珍しくはないが、勤続年数が長いだけでなく、同一施設での経験が長いので施設

の歴史にも詳しく、本当に貴重な存在になっている。設備管理の仕事は知力と体力の両方を備えていなければならない上に、顧客への気遣いも必要。シニア世代になると衰える体力面は会社としてフォローし、できれば80代までは勤務を続けてほしいとの声も上がっているという。

開院から長年勤務 設備の「生き字引」



毎月第2土曜日に掲載

大学で機械について学び、卒業後、警備会社に約9カ月間勤務した。その後、職業訓練所で電気を学び、食品会社に4年勤めて機械設備の保守管理を担当。83年2月に昭和建物管理に入社した。配属されたのは名古屋市内にある医療と福祉の総合的な複合施設だった。

電気、ボイラー、冷凍、危険物：多くの資格生かす

仕事は電気、空調、衛生、ボイラーなどの設備全般を管理すること。施設として大きいだけに、それぞれの設備も家庭用よりずっと

大型の機械だ。設備管理は、その運転・保守・点検を行うので、知力や技能のほか、広い施設内を歩き回る体力が必要な仕事でもあるという。

具体的な作業としては例えば、点検して異常を感じたら原因を見つけ、必要な対処をする。また、空調設備のフィルターの取り換えや洗浄なども行う。

大きさや機能は全く違うものの、前職の食品会社でも機械設備を扱い、電気関係の仕組みなどには共通するところもあったので、大きな戸惑いはなかった。図面を読む必要もあったが、職業訓練所に通っていたころに独学で学んだので、それも役立つ。

また、いろいろな資格も取得した。入社前に、電気保安のための責任者である第三種電気主任技術者の資格を取得して、入社後の84年に第一種電気主任技術者の資格も取得。そのほか、一級ボイラー技士や第一種冷凍保安責任者、危険物取扱者、エネルギー管理士

知識と経験で「安全第一」伝える

2014年、漆戸さんは趣味のスキーで足を骨折。碧南市民病院に入院した。ただ、病院はちょうど工事中で、入院中の漆戸さんの携帯電話には、設備に関する業者からの問い合わせが続いたという。10年ほど前に課長に昇進した漆戸さん。同社の定年は65歳で、一昨年度を迎えたが、定年後再雇用で勤務を継続している。広い施設を歩く体力には衰えも感じるものの、知識や経験は増えた。責任を分担する中堅社員も育ち、その仕事を見守ることも増えてきた。後進には「安全第一」を守るように伝えているという。今後も、健康に気をつけてできるだけ長く元気に働きたいと力を込める。



後輩の中堅社員らと作業の打ち合わせを行う漆戸さん(撮影のためにマスクを外しています)

なども取得した。一級ボイラー技士の資格は設備管理の仕事では必須と言われているが、資格の取得には大変な勉強と努力が必要なため、漆戸さんほどいろいろな資格を取得している人は社内でも多くはないという。

そんな漆戸さんは入社後約3年、32歳くらいの若さで主任になった。主任はほかの従業員のシフトの管理も行い、誰も出勤できない日があると自分が出勤しなければいけない現場の責任者だ。

88年、碧南市民病院がオープンし、副主任として配属され、翌年、主任になった。以来、今日まで同病院で設備管理に従事している。

開院からずっと勤務し、電気系統から配管などまで、設備に関するあらゆることに精通しているのは漆戸さんくらいだという。これまでさまざまな増改築工事が行われたが、設計から工事の完了までの期間、工事の業者も病院職員も、何かと漆戸さんを頼りにした。